

# 栃木県産業技術センター

## 地域の振興と活性化をサポートする競輪補助事業



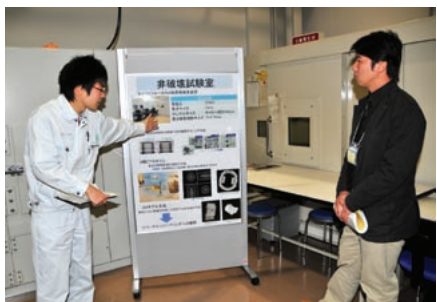
栃木県産業技術センターを含めた複合施設の「とちぎ産業創造プラザ」。



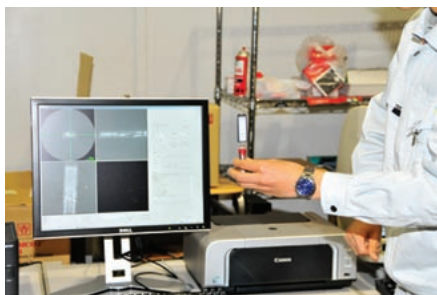
技術交流部長の横塚勝さん、副所長の飯野敏明さん、技師の近藤弘康さんからお話を伺う福田選手。



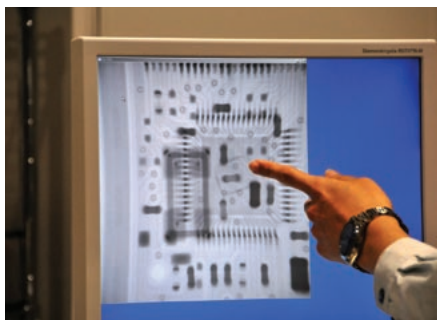
非破壊試験室に置かれたマイクロフォーカスX線透視検査装置とX線CTスキャン。



技師の近藤さんから機器についての説明を受ける。



USBメモリーを使って機器の使い方を実演。



USBメモリーの内部がこんなふうに細部に渡って映し出される。

今月は栃木県宇都宮市にある「栃木県産業技術センター」を訪ねました。前回、岐阜県の産業技術センターを紹介しましたが、こちらの施設も主に中小企業を対象とした技術支援や人材育成などを行っています。特徴的なのは他に2つの組織が入った複合型施設になっていることで、様々な中小企業支援ツールが一体化された「とちぎ産業創造プラザ」として利用されています。

支援対象業種は機械、電子、材料、繊維、食品など多岐にわたりますが、益子焼などの窯業や、ユニスコの無形文化遺産に登録された結城紬など、栃木の伝統産業を扱う部門もあります。中小企業の支援施設は全国各地にありますが、地場産業などそれぞれの特色を活かした支援を行うことで、地域全体の振興と活性化を目指しているのです。

今回見学させて頂いたのは、競輪補助事業を受けて導入された「マイクロフォーカスX線透視検査装置」と「X線CTスキャン」の2つの機器。主に自動車部品など製造品の内部欠陥や、電子部品の断線を調べることに使用されることが多く、製品を壊すことなく内部が確認でき、細部の拡大や断面・立体画像が見られることが大きな特徴だといま

す。高価な機器のため、自社で導入できる企業は少なく、年間20〜30社の定期利用があるそうです。

またこれまでこの機器で撮影した画像はここでしか見ることができず、以前から「会社に持ち帰って見られたら」という声があったといいます。その要望に応えようと、一般のPCでもデータを見られるようにしたソフトを独自に研究開発し、もうすぐ実用にこぎつける段階なのだとか。ユーザーの利便性もさらにアップすること間違いなしですね。

施設を訪ねて頂いた福田匡史選手のインタビューは46ページに掲載しています。